



筑波技術大学では、大学のイベント情報や最新のニュースなどの様々な情報を提供するメールマガジンを配信します。ご登録は、登録用 URL ([http://www.tsukuba-tech.ac.jp/mail\\_magazine](http://www.tsukuba-tech.ac.jp/mail_magazine)) 又は QR コードから行えます。みなさまのご登録をお待ちしております。



7月26日から8月4日、ブルガリア共和国の首都ソフィアで第22回夏季デフリンピック大会が開催されました。本学の学生が4名出場し、障害者高等教育研究支援センターの中島幸則助教も日本選手団本部メディカルスタッフ・アスレティックトレーナーとして帯同しました。

写真(上)：閉会式に出席した、前身の筑波技術短期大学卒業生及び筑波技術大学の卒業生・在学生（最前列、左から2番目が吉野勇樹さん（産業情報学科3年）、右から3番目が岩渕亜依さん（総合デザイン学科2年）。最後列、左端が中村晃大さん（産業情報学科4年））

(下)：日本選手団スタッフ（右端が中島助教）

詳細については3ページ目の「デフリンピック参加報告」をご覧ください。

## ● 個人情報保護に関する研修会を実施



講演会の様子

7月31日、天久保キャンパスにおいて、教職員の個人情報の保護に関する知識や意識の向上を図るため、株式会社インソースの岡野知穂氏を講師に迎えて、「個人情報保護に関する研修会」を開催しました。

研修会では、個人情報の取扱いや個人情報漏えいの経路、情報セキュリティ対策について具体的に身近な事例を交えた分かりやすい講演が行われました。

教職員は、講師による講演や個人情報の取扱いについてのワーク等を通じて、日々の業務中での個人情報の取扱いについて改めて見つめ直すことができ、非常に有意義な研修会となりました。

(総務課総務係)

## ● 「聴覚・視覚障害学生の修学環境向上」をテーマとした研修会を開催

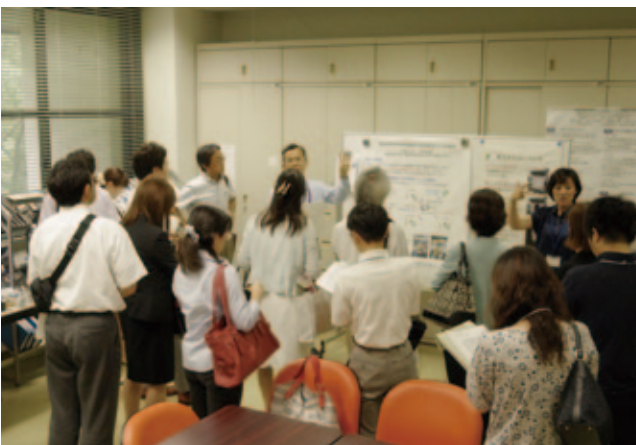
7月5日、春日・天久保両キャンパスにおいて「聴覚・視覚障害学生の修学環境向上」をテーマとした研修会を開催しました。これは、文部科学省認定の教育関係共同利用拠点である「障害者高等教育拠点」FD研修事業の一環として開催したものです。本研修会は、大学等で障害学生の指導・支援に関わる教職員を対象に、本事業で開発した教育コンテンツや指導法、支援技術、及び保有している支援機器の利用体験を通して、障害学生の支援に関する知識や技術について理解を深めることを目的として開かれ、全国の48大学から73人の参加がありました。

春日キャンパスにおいて実施したプログラムでは、視覚障害学生に配慮したバリアフリー環境と本センターで保有している支援機器を見学・体験するツアーのほか、授業見

学が行われました。また、天久保キャンパスにおいては、聴覚障害学生指導・支援を中心とした教育コンテンツの体験や語学や体育・スポーツ科目の指導法、支援技術をワークショップ形式で紹介しました。このほか、全体会として石原保志副学長による『合理的配慮と障害者高等教育拠点について』をテーマとした講演も行われました。

参加者からは、「教育コンテンツなど実際に見学・体験することができて、障害学生への具体的な支援への活用・応用をイメージすることができた」という声が聞かれました。

(障害者高等教育研究支援センター 須藤 正彦)



視覚障害支援機器紹介



春日キャンパス体育館（プール）  
におけるバリアフリー環境紹介



## つくば市環境都市の推進に関する協定締結式

6月24日、つくば市役所において、つくば市、茨城県、都市再生機構首都圏ニュータウン本部茨城地域事業本部及びつくば市内の教育研究機関、合わせて22機関が参加し、協定締結式が行われました。これは、つくば市が国より「環境モデル都市」として選定されたことに伴い、国が進める地域温暖化対策と経済成長を同時に実現する低酸素社会の構築に向け、「つくば環境スタイル」の推進及びそれに関連する環境に配慮したまちづくりに寄与することを目指すもので、今後、つくば市等は、各教育研究機関の研究等に協力し、その成果について普及啓発に努め、各教育研究機関は、つくば市等が推進する環境に配慮したまちづくりに協力し、低炭素社会の構築に向けた知の創出に努めることとなりました。



協定締結後の記念撮影（手前列、左から3人目が村上学長）

（財務課）

## デフリンピック参加報告

7月26日から8月4日、ブルガリア共和国の首都ソフィアで開催された「第22回夏季デフリンピック大会」に、日本選手団本部メディカルスタッフ・アスレティックトレーナーとして帯同いたしました。デフリンピック大会への帯同は3回目になりますが、今回は本学に赴任して初めての帯同でしたので、選手団全員へのサポートは勿論ですが、本学学生4名に対する責任も感じながら臨みましたが、残念ながら4名ともメダル獲得はできませんでしたが、日頃の成果を遺憾無く発揮してくれたと思います。

また、本学及び短大卒業生も24名が選手・スタッフとして参加していました。中でも、女子バレーボールチームは銀メダルを獲得しましたが、卒業生である菅谷美穂さん（H.23卒）、宇賀耶早紀さん（H.24卒）はチームの柱として活躍していました。各競技の試合結果については<http://www.jfd.or.jp/sc/sofia2013/>をご覧ください。なお、本学学生の結果は以下の通りです。

- ・品田千紘（産業情報学科4年）  
バドミントン・シングルス8位、ダブルス4位
- ・中村晃大（産業情報学科4年）  
陸上競技・三段跳び6位、幅跳び8位
- ・吉野勇樹（産業情報学科3年）  
男子サッカー14位
- ・岩渕亜依（総合デザイン学科2年）  
女子サッカー6位

（障害者高等教育研究支援センター 中島 幸則）



右から2人目が品田千紘さん



（左）国旗を掲げ入場する日本選手団スタッフ、  
（右）出場した学生のうち品田さんと中村さん

## ● チェコでの視覚障害者サマーキャンプ参加報告

7月15日から10日間、チェコ共和国のテルチにて開催された視覚障害者のためのサマーキャンプICCに、情報システム学科2年生の松尾政輝さんが参加しました。本事業は、学生の旅費の一部に筑波技術大学基金からの助成を受け、本学の国際交流事業の一環として実施されたものです。

毎年欧州各国から視覚障害者が集う同キャンプ、今年は学生だけでも15ヶ国・70人以上が参加しました。宿泊部屋で同室になったスロベニアの学生さんと音声ゲームの話題で盛り上がったという松尾さんは、Linuxを学んだり

Little bitsというハードウェアに触れたり、11種類のワークショップを楽しんだようです。また、夕方のアクティビティの時間には、自転車のタンデムを体験したり湖で泳いだりと、汗を流していました。一方、引率教員側も書道とプログラミングのワークショップを連日実施し、英語スキルを磨くことができました。

(情報システム学科 小林 真)



キャンプ参加者の集合写真

## ● 視覚障害者囲碁交流会で本学学生が活躍

5月23日及び6月15日、視覚障害者囲碁交流会がリフレッシュ氷川（東京都渋谷区）で開催され、本学学生8名が参加し活躍をしました。本交流会は川崎市視覚障害者福祉協会（会長高橋吉三郎）と日本福祉囲碁協会（会長渡辺幸男）の共催のもとに今年度から開催されました。大会は十九路盤クラス7名、十三路盤クラス6名、九路盤クラス13名で行われ、本学囲碁・将棋部、日本点字図書館、関東地区の視覚障害者囲碁サークルからの参加がありました。参加にあたり、一部は筑波技術大学基金からの補助を受けました。今後、更なる学生の活躍が期待されます。結果は以下の通りです。

- ・中島達志（情報システム学科4年）十三路盤クラス優勝
- ・小宮尚貴（情報システム学科1年）九路盤クラス3位
- ・曾我晋平（情報システム学科1年）九路盤クラス特別賞

(保健科学部 一幡 良利)



交流会終了後の記念撮影  
(手前左から、小宮さん、中島さん、曾我さん)



## ● 二科茨城支部展で茨城県知事賞、県議会議長賞等を受賞

5月15日から20日にかけて、茨城県立県民文化センター（水戸市）で開催された第51回二科茨城支部展デザインの部で、総合デザイン学科卒業生・江幡夏海さんの作品「JAPAN festival」が茨城県知事賞、同江幡さんの作品「はぐれツバメ」が入選、総合デザイン学科4年生・酒井美里さんの作品「催促」が県議会議長賞、卒業生・菊池樹理さ

んの作品「情熱野菜」、総合デザイン学科4年生・永瀬由佳さんの作品「安心目鳥」、同4年生・村里優季さんの作品「WORLD」、同4年生・古田亜希子さんの作品「紫陽花」が入選に輝きました。

（総合デザイン学科 長島 一道）



（左から）「JAPAN festival」「催促」  
「はぐれツバメ」「情熱野菜」「安心目鳥」「WORLD」「紫陽花」

## ● 日本聴覚障害学生高等教育支援ネットワーク活動報告

### ● 日本聴覚障害学生高等教育支援シンポジウム

昨年12月、愛媛大学にて開催した第8回日本聴覚障害学生高等教育支援シンポジウムでは、参加者が360名を上回り、過去最大規模での実施となりました。

午前中の分科会では、「基礎講座：愛媛大学障がい学生支援体制構築のあゆみ」「実践！職場でのエンパワメント」「見て学ぼう！みんなの書き方・打ち方」「解決！コーディネート現場の悩み」を行い、いずれも示唆に富んだ発表と充実した意見交換が行われました。

特別講演では文部科学省高等教育局学生・留学生課長の松尾泰樹氏より「高等教育機関における障害学生への合理的配慮について」と題して、講演をいただきました。すべての大学が注目する政策動向について、最新の情報を得る貴重な機会となりました。

午後のランチセッションでは、16の大学・団体からの「聴覚障害学生支援に関する実践事例コンテスト」が行われ、参加者の投票によって注目度の高いものが表彰されました。また、松山市での開催にちなみ、愛媛大学、松山大学や松山市内で活動するNPO団体の紹介パネル展示が行われました。

本学からは大学紹介パネル展示の他、機器展示として、障害者高等教育研究支援センターの三好茂樹准教授によるモバイル型遠隔情報保障支援システム、産業技術学部の鈴木拓弥講師によるSZKIT、同学部の若月大輔准教授による

プロジェクトを用いた情報保障支援システム、技術科学研究科大学院生による指文字入力インターフェースの研究が紹介されました。

この他、新企画の「ミニセミナー」では、「聴覚障害学生への合理的配慮」「四国地区の大学紹介」等3テーマでミニ講演を行いました。また、同じく新企画の「相談コーナー“トーク&トーク”」では、「就職」「コーディネート業務」等5テーマのブースを設け、参加者やアドバイザーが自由に情報交換や相談ができる場を提供しました。

年を追うごとに参加者数が増え参加者のニーズが多様化する中、有意義なシンポジウムとなりました。



シンポジウムでのパネル展示

## ● 障害学生支援教職員研修会

2月22日、同志社大学今出川校地にて、日本聴覚障害学生高等教育支援ネットワーク（PEPNet-Japan）と同大学の主催による「障害学生支援教職員研修会」を開催しました。PEPNet-Japan 地域ネットワーク形成支援事業の一環として、同志社大学の他、大阪大学、大阪教育大学、関西大学、関西学院大学、立命館大学の障害学生支援担当部署が協力し、実行委員を組織して企画しました。当日は、第1部の基調講演を一般公開として行い、事前申込制で実施した第2・3部には全国から132名の方にご参加いただきました。

基調講演では、文部科学省高等教育局学生・留学生課の田畑潤司氏から、「障害学生支援に関する文部科学省の政策動向」と題して、合理的配慮の基本的な考えなどについて報告書の内容を引用しながら、「報告書の内容をすべてできるようになってから取り組むのではなく、できることからスタートするという考え方が大切」と述べられました。

続いて信州大学の高橋知音教授から、「これからの障害学生支援のあり方」と題して、信州大学での取り組みをご紹介いただきました。合理的配慮の決定にあたっては専門家を含む組織が判断を下し、個々の判断に対して大学が責任を持つ体制が求められるとの点が強調されました。

分科会では、「入門コース 障害学生の4年間」「実践Iコース 事例検討」「実践IIコース モデルプラン構築」の3コースに分かれて実施しました。入門コースでは卒業を控えた聴覚障害学生とその支援に携わった担当者による、経験談



シンポジウムでのパネル展示

や具体的実践に基づいたパネルディスカッションが行われました。また、実践I・IIコースでは各テーマ、事例について活発な意見交換が行われ、参加者が各大学に持ち帰り今後の具体的な取り組みにつなげていくことが期待されます。

本研修会は参加者からの評価も高く、また、実行委員を担った6大学の支援担当部署は現在も情報交換や交会等の活動を継続し、多くの成果を残した取り組みとなりました。なお、研修会の詳細な内容は報告書にまとめており、PEPNet-Japanのウェブサイトから無料で閲覧できるほか、希望者には無償で冊子を提供しています。

(障害者高等教育研究支援センター 三好 茂樹)

## ● 第9回日本聴覚障害学生高等教育支援シンポジウムのご案内

今年は群馬大学荒巻キャンパスを会場に、第9回日本聴覚障害学生高等教育支援シンポジウムが開催されます。

### 開催要項

#### <日程>

2013年12月8日(日) 10時～17時

#### <会場>

群馬大学 荒巻キャンパス  
(群馬県前橋市荒巻町4丁目2番地)

#### <対象>

全国の大学等で障害学生支援を担当する教職員、及び聴覚障害学生、支援者。その他高等教育機関における障害学生支援に関心のある方々。

#### <参加費>

無料



#### <主催>

日本聴覚障害学生高等教育支援ネットワーク  
(PEPNet-Japan)

国立大学法人 筑波技術大学

#### <共催>

国立大学法人 群馬大学

なお、詳細につきましては、日本聴覚障害学生高等教育支援ネットワーク（PEPNet-Japan）のホームページ <http://www.a.tsukuba-tech.ac.jp/ce/personal/shirasawa/file/introduction.htm> をご覧ください。